

新幹線プレス

2011年8月22日 No.8

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

庫5番線に入線予定の電車が4番線に！ 夏の多客期輸送期間に会社のヒューマンエラー発生！

8月19日、朝から豪雨となることもあり新幹線も雨量が規制値に達し運転中止の区間も発生し終日ダイヤが乱れました。そのため、東京駅では通称列車ホテルが準備されました。そして翌朝、8月20日6時30分頃、その列車ホテルに使用されたJ60編成が東京車両所の第二検修庫に仕業検査のため入線してきました。しかし、なんと驚くことに入線予定の5番線ではなく4番線に入線してきました。社員はもとよりSMT社員（整備会社）も啞然としました。

外勤、仕業検査、整備社員に連絡なし！

構内操縦に確認したところ、朝5時00分に受け取った列車報では4番線に入線することになっていました。しかし、外勤、仕業検査、SMT社員には何の連絡もなかったのです。会社は日頃から安全のため、連絡の徹底を強調しています。また、社員がヒューマンエラーを起こすと、点呼で周知させると共に大々的に掲示をし、原因究明ではなく、あたかもヒューマンエラーを起こした社員に対して悪人のような扱いをし、ヒューマンエラー防止に躍起になっています。しかし、今回は注意を促している会社が入換変更の連絡を失念したのです。明らかなヒューマンエラーです。このような入換変更の連絡失念は安全上大きな問題があります。

SMT社員あわてて移動、あわや労災発生！

連絡もなく突然4番線に入線してきた電車に、外勤、仕業検査班、SMT社員も騒然となりました。特にSMT社員は5番線で待機していましたが、大急ぎで4番線に移動しました。移動には昇降階段があり一步間違えると労災の危険がありました。幸いにも労災はJR社員、SMT社員にも発生しませんでした。連絡がないことは多くの問題があります。現場はJR社員、関連会社の社員をはじめ検修当直や外勤の指示、連絡を基に作業をします。その連絡がないのは作業上、安全上大きな問題です。

計画されていない番線に突然列車が入線するような事態は、やもすると命にも関わることなのです。会社は今回のことを教訓にして、原因をしっかりと突き、二度と連絡の失念がないような体制をしっかりととるべきです。

JR東海労新幹線地本は安全で明るく働きやすい職場環境をつくるため奮闘します。